参考資料２

第３回ＰＩ委員会傍聴者アンケート及びインターネット中継結果

１　会議概要

日　　時：平成24年2月11日（土）13：30～15：30

場　　所：トラストシティカンファレンス丸ノ内

出席委員：石田委員、寺部委員、松浦委員、高井委員、目加田委員

傍聴人数：10人（９人提出）

２　アンケート結果

①ＰＩ実施計画について

- 「透明・公正に進める」のであれば、タイトルを沼津まちづくりＰＩプロジェクトにした方がよい
- パブリックコメントの様式で氏名・住所・電話番号が必須では、多くの意見が集まらない
- 駅周辺の課題として、大岡地区の通勤・通学時の自転車状況や長時間にわたる踏切遮断、交通渋滞などもテーマにしてほしい
- 財政による影響について明確化した議論をしてほしい
- ＰＩは、原地区のまちづくりについてのみ議論をしてほしい
- 高架化・貨物駅移転が前提になっているため、ゼロベースで議論をしてほしい
- 有識者会議の報告書や県の推進方針においても高架化は決まっている
- 鉄道高架の計画を白紙から議論していくような印象を受けた
- 鉄道高架事業自体が、振り出しに戻るような議論には、反対
- 沼津が、活性化するような議論をしたい
- 計画から20数年経っており、経済・社会が激変しており、そのような視点を明確にした議論をしてほしい
- 計画の妥当性、フィージビリティーを議論すべきである

②ＰＩの意見聴取について

- 将来の沼津を担う若い世代（高校生）から意見を求めるべき
- 駅周辺の地域について沼津駅に限定するのではなく、踏切遮断による交通渋滞に悩まされている大岡地区まで広げた方がよい
- 県東部地域の拠点づくりを目指しているのであれば、三島市や御殿場などの近傍の意見も聞くべき
- 沼津市もＰＩに積極的に参加すべき

③会議の運営について

- ＰＩ委員が現場を知る上でも委員会を沼津で開催してほしい
- 沼津市民文化センターホールなどの広い会場で市民に周知、公開をすれば傍聴人数を限定しないで良いのではないか
- ＰＩ委員会の意見を県当局が受け入れていないのではないか
- ＰＩ事務局が静岡県の場合、県の意見が強く反映するのではないか

④ＰＩ委員に対する意見

- 静岡県の主張に押し切られるのではなく、もっと強く主張してほしい
- ＰＩ委員の姿勢と意気込みがよくわかった
- 有識者会議もＰＩ委員会の議論も本質的な争点、客観的な計画論を避けている

⑤その他

- ステークホルダーヒアリングなどの資料をホームページに掲載すべき
- 沼津のまちづくりは、高架化を前提に始まっており、一部の反対者のために多くの人に迷惑をかけること自体が間違っている
- 過去に鉄道高架事業そのものを争点とした選挙を何度も繰り返した結果の評価をどうするのか
- 事業の推進・反対という政治的対立に関心が向いている
- ＰＩが反対運動になるのではないかと心配している
- ＰＩをやったという行政側のアリバイつくりにならないか
- 市民の間には、ＰＩによる進め方で結論が出るのか疑問視する声が多い
- 事業を進める結論が出ても反対の声がなくなることはないのではないか
- 鉄道高架事業に対し関心の薄い市民へ情報を伝えることは難しい
- 賛成と反対に二分しているという考えは間違っている。反対派は一握りである
- 沼津市にとって鉄道高架事業は、中心市街地が活性化する千載一遇のチャンスである。
- キリンビールや新幹線の誘致など一部の反対により失敗し、今になって後悔している。今回は、そのような事がないようにしたい。

3　インターネット中継結果

- アクセス台数　パソコン 10 台
- 延べ視聴時間　16.3 時間